

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成27年度 技術情報第12号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

トビイロウンカの発生状況等については以下のとおりで、今後の発生状況に注意し、適切な防除をお願いします。

平成27年度 技術情報第12号

1 発生状況等

(1) 8月3～5日に行った巡回調査（調査ほ場数62ほ場）での発生ほ場率は31%（平年44%）と平年並みで（図1，表1），発生密度が低く，発生程度はすべてのほ場で少発生であった。

(2) 今回の調査で認められた虫態はそのほとんどが老齢幼虫で，7月1～2日飛来虫に由来する第1世代虫と推察されたが，有効積算温度利用による発生経過予測に比べ発生がやや遅れている。

(3) 今回調査した62ほ場のうち，成虫が確認されたのが2ほ場（3%）で，そのうち短翅型雌成虫が認められたのは1ほ場（2%）のみであった。

(4) 7月下旬から8月上旬に第1世代虫の防除を行っていない場合は，今後，第2世代の増殖が懸念される。

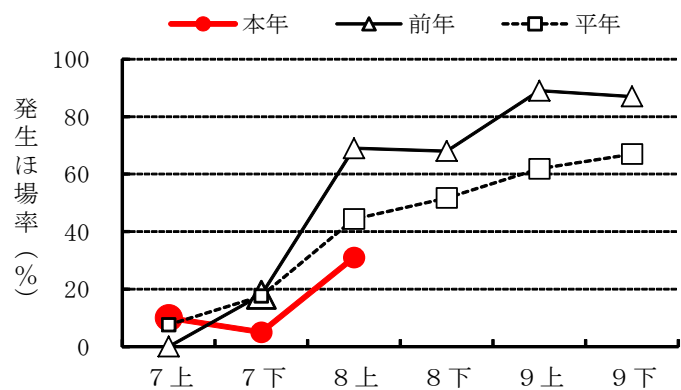


図1 トビイロウンカの発生ほ場率(普通期水稻)

2 防除の考え方

(1) 7月1～2日飛来虫の第2世代幼虫の防除適期は8月23～28日頃と予想される（参考資料の発生経過予測図を参照）。

3 防除上注意すべき事項

(1) トビイロウンカは増殖率が非常に高く，8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる恐れがある。本年も昨年と同様に，10月にかけて密度が高くなる後半多発型の発生が懸念される。

(2) 本種は稲の株元に生息するので，粉剤や液剤で防除する場合は薬剤が株元に十分届くように散布する。

(3) ほ場では各虫態が混在しているので，防除を実施したあとも，その後の発生に十分注意する。また，ほ場内の分布にはムラがあるので，ほ場全体の発生状況を確認する。

(4) 薬剤散布にあたっては，農薬の使用基準を遵守し，薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

2015年8月7日 作成

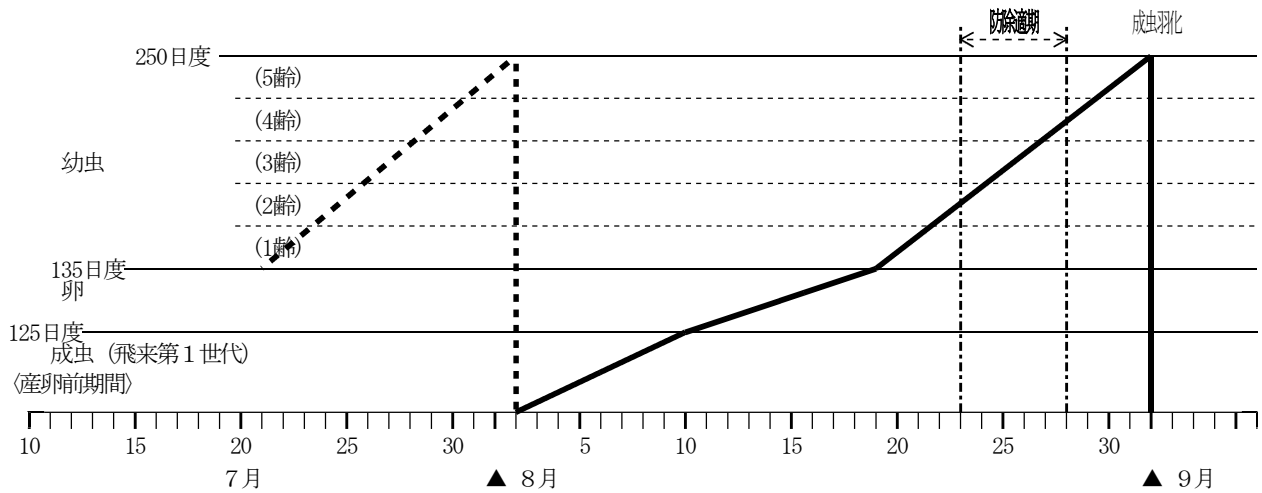


表1 巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況 (調査日：8月3～5日)

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	
		本年	平年
南 薩	10	50	44
北薩平坦	24	21	46
北薩山間	22	41	44
大 隅	6	33	41
県計(平均)	62	31	44

※ 平年は2006年～2014年の平均値。

※ 巡回調査地点

南 薩： 南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目
日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦： 鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田
霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町
出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田
薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間： さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手
伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・木崎・山野，湧水町北方

大 隅： 曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里